

# 想像力とその方向性

千葉大学大学院 工学研究科デザイン心理学研究室博士課程

李 志炯

「対象をその現前がなくても直観の中で表象する能力」

「多様を一つの形像(Bild)へ持って来る能力」

哲学者イマヌエル・カントは想像力について上記のように語った。この想像力は感性と知性の中間の能力であり、感性と知性の概念を少しずつ含んでいる。感性と知性は知覚から始まる能力であるため、想像力も知覚から始まる能力であると考えられる。

我々は日常生活の中でさまざまなものや環境を感性と知性を用いて知覚し、対象を理解している。そして、そこから得られた情報と想像力を用いていろいろな思考をしている。また、同様のプロセスで現在の社会システムを知覚し、想像力を用いて未来の社会システムを予測し、社会システムを発展させてきた。そのため、想像力は社会システムの発展において欠かせない要素である。

一方、想像力は映画やアニメーションなどの芸術とよく結合する。映画やアニメーションなどは制作された当時の時代状況に想像力を加えて人間の未来像を描いている。そのため、映画やアニメーションなどの仮想現実で描かれた社会システムが後で現実の社会システムに実現される場合もある。例えば、『ブレードランナー』(1982 年作)、『ターミネーター』(1984 年作)、『攻殻機動隊』(1995 年作)、『ガタカ』(1998 年作)などでみられた科学技術およびそれが適用された社会システムは 20~30 年に経った今、我々が住んでいる社会を構成している。

このように我々は想像力を基盤に生きてゆき、想像力を基盤に社会システムを構築している。そのため想像力はとても大切な能力であり、人間の存在意義に影響を与える重要な要素であると考えられる。

一方、人間において大切な能力である想像力の向上のために努力することも大事であるが、想像力の方向性も大事だろう。上記で挙げた映画やアニメーションでは科学技術は進歩しているが、人間性は低下している傾向がみられる。また、人間に対する信頼が低下し、個人個人が孤独に生きているように見える。どうして未来はこのように描かれているのだろうか。科学技術の進歩は人間に利便性を与えるが、その代わりに人間性を奪うのか。私はそうではないと思う。時代の変化によって人間性の概念は変容すると考えられるが、人間性

の根本的な概念は変わらないと思う。また、科学技術の進歩は時代の変化によって変容された人間性の概念を、人間が身につけやすくするための助力者という役割を担うと思う。このように私が持っている人間の未来像は、映画やアニメーションで描かれている人間の未来像と差がある。その理由は上記で述べた想像力の方向性にあると考えられる。人間の明るい未来像を期待するためには、まず自分が持っている想像力の方向性を変える必要があるだろう。しかし、スマートフォンのゲームアプリケーションや仮想現実の実現などに想像力の方向を合わせている今の社会をみると、人間の明るい未来像を期待することが可能かという懸念が生じる。もちろん、これらの発達によって人間が幸せを感じると思うが、そのほとんどは些細な刺激による一時的な幸せではないかと思う。スマートフォンのゲームアプリケーションや仮想現実などは **Society5.0**（超スマート社会）の主力産業である **IoT・ビッグデータ・人工知能・ロボット** に符合する分野であり、その技術を発展させる必要がある。しかし、ここ数年間の社会の変動や人間性の変化をみた限りでは、方向性についてもう一度考える必要があるのではないか。我々は明るい未来像を期待して、科学技術を進歩させている。そのため、科学技術の進歩にかかわる人々の想像力の方向性は大事であると考えられる。